

長洲町のばかひ保存会



概要

設立年月日 昭和44年12月25日

会 長 宮本俊紀 (みやもと としゆき)

会 員 数 39名

住 所 長洲町大字長洲441番地3

主な活動地 長洲町

地域文化活動部門

「的ばかり」は八百余年の歴史を誇る長洲町の伝統行事で、毎年一月に締め込み姿の若者達が四王子神社境内や町内、そして最後には有明海で激しく揉み合い、円座をかたどった「的」を奪い合う勇壮な祭です。的とともに魔除けの弓矢も奉納するため、「破魔弓祭」とも呼ばれています。

安土桃山時代に四王子神社を現在地に移す際、氏子らが御神体を乗せた円座をお守りにするために奪い合ったのが起源とされ、祭りの後には、「的」を小さく切り分け、氏子の各家庭や参拝客に配って無病息災・家内安全のお守りとして使われます。

長洲町「的ばかり」保存会は、祭りで使用する藁と麻で編まれた「的」（直径六十センチ、重さ六三）の製作から、総勢百五十名を数える参加者の指揮・監督や祭運営等を執り行っています。祭りの企画・経理、広報活動などの運営業務を引き継いでいくことにより、祭りを継続することに尽力してきました。また、会員が中心となって祭りへの参加呼びかけを行うことにより、毎年百五十名ほどの参加者が維持され、賑わいを見せています。

保存会の活動は、長洲町の伝統的な「的ばかり」という行事を、三十五年間にわたり文化的遺産として保存・継承していることで、地域文化の振興や地域の活性化につながり、今後も活躍が期待されています。

これまでの活動歴

昭和四十四年	保存会設立
昭和六十年	長洲町中央公民館に「的」の寄贈
平成元年	的ばかり写真コンテスト開催
平成十二年	長洲・腹栄中学校に「的」の寄贈
平成十三年	長洲小学校に「的」の寄贈

※ビオオでの記録・保存（的作りからの的ばかり当日まで）
（以後毎年開催）